思いつくままに

My memories

藤谷 渉*

Wataru FUJITANI*

1992年11月には、軽金属奨励賞を受賞させていただき、誠にありがとうございました。私は1975年4月1日より大阪大学工学部材料物性工学科(当時は冶金学科その後金属材料工学科)に採用されて以来、35才の現在まで周囲の諸先生方に導かれるがままに仕事を続けてまいりましたが、このたび、このような名誉ある賞に結びつきましたことは、私個人の力だけではなく周囲の方々の絶大なるご支援によるところが大きく、大きな喜びとともに深く感謝する次第です。

さて、私は大阪大学工学部に文部技官として採用され、研究室に配属になりました。行政職の技官が軽金属奨励賞をいただくことは過去例がないと聞いております。LM コラムを執筆させていただくに際しましては、私にどのようなことが書けるかと考えたのですが、今日までの研究室でのいくつかの出来事を思いつくままに書かせていただくことにしました。

ご存知のように大学の研究室は教育研究の場であり、教育者研究者の活躍の場であります。配属前は自分がその一員となってどのような仕事をするようになるのか全く想像もつきませんでした。金属材料に関して全く素人だった私は、組織観察をするため、まず炭素鋼をバフ研磨で鏡面にする仕事から始めることになりました。仕事というよりは基礎訓練でしたが、なかなかうまくできず腐食する段階までには長い時間がかかり、やっと仕上がった試料を光学顕微鏡でのぞいてみたら傷だらけでがっくりということが何度も繰返されました。しかし少しずつきれいに仕上がってくる組織を見て、日常身近にある金属がこのような組織からできていることを知り大変驚き、また興味を持ちました。このように最初に観察した組織は鉄でしたが、やがて銅、アルミニウムそしてマグネシウムへと組織観察できる種類がどんどん広がって行きました。そのうちに先生の実験の手伝いや比較的簡単な実験であれば自分一人でさせてもらえるようになり、一段と金属に興味がわき始めたのです。時を同じくして、二部の大学へ通学させていただき、金属学を学ぶことができました。昼間仕事をして夜間学ぶことは決して楽ではありませんでしたが、周囲の人々の励ましのおかげで無事卒業証書を手にすることができました。卒業する頃初めて研究テーマを与えられました。ここからが本当の研究の始まりだったのです。この時私は、やっと研究室の一員になれたという気がしました。

大学の教室系技官の仕事は、学科によって、また同じ学科でも研究室によってその職務の内容は必ずしも同じではありません。研究室においては、その研究室の方針によって職務が決まります。私の場合研究の業務を行う以外にも、うまく研究室を運営するための研究支援、たとえば実験装置の開発、運転、保守管理に関すること、他の研究者や学生諸君の実験補助、最近では安全に実験を行うための保安

* 大阪大学工学部材料物性工学科

受理日：平成5年1月29日

管理まで広範囲に及びます。しかし、どれも重要な仕事であり、ともすればそれらが先行し私の実験や研究の業務は当然あつまわしになるわけです。そのようなことが多くなると自分の実験や研究の進み具合が良好でない場合もあり、それゆえに、主体的に進めてきた研究が何とかまとまり、軽金属学会などでその成果を発表できるということは大きな励みとなりました。私が初めていただいた研究テーマも実験の進め方が不慣れなことも加わり、まとまるまでには長い時間かかりました。壁にぶつかったときには周囲の人々と討論し、ずいぶん励ましていただきました。そのことについては諸先生方はもちろんのこと、学生諸君との気軽なやりとりの中にも大切なことを見いだすことがたくさんありました。

毎年4月には4回生が配属になり、研究室の新たな一年のスタートとなります。新人に対する試料の研磨、写真技術、真空技術などの基礎訓練や実験装置の取扱いそして安全教育など、いきなり私の活躍の場がおとずれます。また、新人歓迎の研究室ハイキングやコンパなどを通じてさらに親しくなり、各講座対抗のソフトボール大会などでは職員学生一丸となることでチームワークでの勝利となりました。このように大学の研究室には家族的な雰囲気があり、大学の研究室ならではの活気あるやりとりが生まれます。

学生さんとは在学時代はもちろんのこと、卒業してからも親しいおつき合いがいまだに続いている人も多くいます。その中の何人かの方々とは、軽金属学会でもよくお会いでき、このたびの受賞のことも一緒に喜んでいただきました。ある方の結婚式に招かれたときのことですが、「どのような家庭を築きたいですか？」という質問に対して「藤谷家のような家庭を築きたい」という答が返ってきて、私は大変照れくさかったことなどを覚えております。このように、私の周囲のあたたかい人々に支えられてここまでやってこられました。

今日まで、大学の研究室において技官である私が、どのように活躍することができるかを考えながら仕事を続けてまいりました。本当にこのままでよいのだろうかと思惑の日々や、一日中学生諸君の研究補助で気がつけば自分の研究はほとんど進んでいなかった日々もありました。しかしその結果、色々な研究に取り組むことができ、またさまざまな実験技術を身につけることができました。このたびの軽金属奨励賞の受賞は、私が今まで積み重ねてきたことが認めていただけた結果でもあると考えております。この積み重ねの技術をもとに今後も大学の研究室で私なりにさらに実験技術を磨き、研究活動を進めて行きたいと思います。最後になりましたが、過去から現在まで、軽金属の研究を進め実績を重ねることができたことにつきましては、御指導いただきました教授、助教授をはじめ諸先生方、そして私を支えて下さった皆様方にただただ深く感謝するとともに、今後ともより一層の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。